

## ○11番（上野淑子君）〔登壇〕

おはようございます。11番上野、議長の許可を得ましたので、ただいまより一般質問をさせていただきます。

ただいま皆さんごらんになったように、本当にけんけんごうごういろんな意見がたくさん飛び交っております。私は、本当にそれはともうちの議会はいいことだなと思っております。ただ一つ、秩序を守り、良識を守りながら進んでいくところは私も反省しなくてはならないなと思っております。

私も本当にきょうの一般質問を迎えるに当たっては、いろんなことを、あれも言おうこれも言おうとたくさん考えておりましたけれども、今までの一般質問の答弁、市長の考え方などいろいろお聞きして、私は毎日、あら、これはきょうは言わんでこっちに言おうとか、今またいろんな意見を聞いて、いろいろ私も勉強になりました。そして、やっぱり私はこれしかないなというところできょうは一般質問をさせていただきたいと思います。

それは、もう本当に今大震災のことですけれども、半年たった今、新聞でも御存じ——皆さん本当にもういろんなメディアの放送でたくさんのニュースを得られたと思いますし、毎日毎日のニュースで、ああ、大変だな、どうしたらいいんだろうなという気持ちで、みんなそれぞれを見ていらっしゃると思います。私も新聞のほうに、9割の方が住居のめどが立っていないというようなニュースを、新聞報道を見たりして、はあ、一体これから日本どうなっていくんだろうなと、そんなことを思っているときにあの豪雨が来て、またまたすごい災害がありました。本当にどうしたものかとお見舞いを申し上げるだけ、本当に簡単ですけれども、我々は一体何をすればいいのかなと考えているところでございます。でも、ただ一つ、本当にここ二、三日、ああ、ちょっと明るくなった気持ちがあったなと思ったのは、我々女性の代表、なでしこジャパンのすばらしい活躍とさわやかな笑顔に本当にほっとして元気が出てきょうは立っております。

私はいつも一般質問に関しては、市長がおっしゃる言葉と一緒にですけど、命を守り、これから先の、先ほど平野議員もおっしゃったように、これから未来を担う子どもたちのために、何をどうしていいのか、どうすれば子どもたちに安心・安全な社会を残していくのか。それを大きな目当てとして私たちはいろんなことをしていかなければならないと思っております。きょうはその点において質問をいたします。

まず、その質問の前ですけれども、これは全国の日本赤十字本社の委員長会議のことで、どうしてもこれは一般質問をするときに報告をしてほしいということでしたので、ここで報告させていただきます。

日本赤十字奉仕団というのは、婦人会の輪、メンバーは一緒でございます。だから、佐賀県の赤十字奉仕団の団長、委員長というのは、佐賀県の婦人会の会長でございます。その折に全国の委員長会が緊急にあったときに、「佐賀県はすごいですね。こんなにたくさんの支

援をさせていただいて、本当にうれしい。子どもたちのためにも手を差し伸べてくださったんですね。まずは日本で一番してくださる佐賀県、いいですね」と言われたそうです。佐賀県の会長は、子どもに手を差し伸べるということはわからなかったので——自分が認識不足でよく聞いていなかったそうです。あらっと思ったけれども、はっと思って、「ああ、武雄市でしょう」と言ったら、相手の方も「そうです。武雄市ですよ」と言われた。そのように、あんたはようそこにおけるけんわからんやろうばってんが、全国でも武雄市というのは、そういうふうに温かい心でいち早く動く市長を先頭に本当に温かい元気のある市だということ言われた。私にね。だから、それをぜひ伝えてほしい。そして、これからもみんなのためにしてほしいということをこれはぜひ伝え、それからまた、我々日本赤十字奉仕団の一員として、本当にうれしく思いました。ここまで引っ張っていかれる——今までのいろんなお話を聞かれていると思いますが、ここまで本当にいろんなことを抜きにしてしなければならないことをいち早く素早く取り組む市長の姿勢に我々は敬意を表していきたいと思います。そしてまた、一緒に協力していかなければならないところは私たちも一緒にやっていきたいと思っております。その報告です。

では、質問に入ります。

次に、私たちはまたこれから災害に対してですけれども、これから先5年、10年、20年ひょっとしたら100年もかかるかもしれないこの大震災に対して、これから先どのように考えていらっしゃるのかをお聞きしたいなと思います。

#### ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

いや、前と違って心が洗われました。（発言する者あり）

まず、ちょっとここで改めて感謝を申し上げたいのは、実は武雄市は、一番最初に募金活動を行ったところということで、東北を含めて非常に高い評価をいただいています。そのきっかけになったのは、上野議員なんですね。たまたまあの日、朝、北方町の婦人会の支部長会でしたね、呼ばれて、そのときに上野議員に「募金をしたいと思っているけど、どうやろうか」と言ったら、「せんばせんば」と、そのときに、「こいの終わったらすぐ駆けつけん。それで私のほうから婦人会の皆さんたちに声ばかけます」ということをおっしゃって、その後、黒岩議員に私電話したですもんね。そいぎ黒岩議員が、「いや、こいはよかことぞ」と。そいぎ、「私は政治家ばってん大丈夫でしょうか、公職選挙法の関係で」、「法より人の命やろうもん」ということのお墨つきをいただいたので、これは鬼に金棒ばいと思ひまして、募金活動を行ったところでもあります。あの募金活動がなければ、多分今につながってなかったと思うんですよね。ですので、上野議員を初めとして、きょう多くのギャラリーの皆さんたちが、皆さんもう、しやえておられますけれども、本当に女性の力というか、

女性のネットワークということに関して言うと、改めて行動力ですよ、感謝を申し上げたいと思います。

ただ、あの当時は、佐賀県もそうですけれども、被災民の方々が多く訪れるという前提で立っていたんですけれども、今やっぱりちょっとかなり変わっていて、今は被災地そのもの、被災者そのものの方をどうしようかということで、これから主にやっていきたいのはこれです。（パネルを示す）これ前も答弁で申し上げましたけれども、特に激甚被災地の一つである陸前高田市ですね。市長さんが福岡にお見えになって、1万人の皆さんたちを集められましたけど、とにかくやっぱりその場でも出ていましたけれども、ボランティアが圧倒的に不足しているということで、ぜひ市民の皆様方に——やっぱり議会っていいですね。これ呼びかけた瞬間に、おいても行く、私も行くという話になって、この1については、1の9月25日はもう締め切りですね、もう満員です。2の9月27日出発と、第4陣の10月4日も、もうほぼ定員ぎりぎりですので、あとは10月2日出発と、10月10日出発であります。ぜひこぞって参加をしていただければと思っています。

そういったことで、今後またボランティア活動を行おうと思っているんですけど、ここで問題なのは、武雄市は小さな自治体です。ここが全部東北をやるというのは、それは不可能ですもんね。ですので、これは佐賀県の古川知事とも相談をしましたし、今まで関連の高い、関連の深いですね、例えば牟田議長を初めとして、チーム武雄で行った仙台の若林区、あそこも広うございます。仙台の若林区と、私自身がつながりが非常に深くなった岩手県の陸前高田市、もう1つは、佐賀県全体として集中的に支援を取り組んでおられます気仙沼市ですね。気仙沼市は何県でしたっけ、宮城県でしたっけ。（「宮城」と呼ぶ者あり）宮城県、副団長がおっしゃるから間違いないでしょう。宮城県の気仙沼市、この3つをやっぱり集中して、これは山口昌宏議員がよくおっしゃいますけれども、顔の見える支援をやろうよと、顔の見える。例えば、武雄市のこの人が焼物ば送ってくんさったとか、そういう顔の見える支援をするということで3つに絞ってやっていきたい。これがモデルとなって広がればいいと思うんですね。

例えば、武雄市がこの3つをやるんだったら、隣の市はほかの3町をやるというふうに、これが水平的に広がるのが恐らく持続可能な支援になるというふうに思っています。そして、技能ボランティアなんですけれども、これ企業の皆さんたちが被災地支援活動を後押しすることで、社員を派遣する企業の皆さん方に移動費と宿泊費を市で助成をします。現地に一定期間滞在をしていただいた上で復旧復興の支援を行っていただくと。これ1団体当たり最大20万円を助成しようと思っていますので、これもぜひ御参加をお願いしたいというふうに思っています。

あとこれ最後にしますけれども、これは答弁で申し上げましたけれども、キッズタウンステイということにつながる部が一生懸命考えてくれたキッズタウンステイで、福島県の郡山

市の子どもたちが参りました。これ報道でもありますように、まだまだ放射線被害というのは収束するという兆しがおおよそ見られません。そういった中で、もう秋ですけれども、例えば、冬休みであるとか春休みであるとか、こういう状態で子どもたちをこちらでリフレッシュするということ、そして、上田議員が先般御質問をされたように、そこで子どもたちの交流をして、武雄っ子たちがやっぱりせんばいかんばいというように、町ぐるみとか市ぐるみで、オール武雄で応援をできるような支援にしていきたいというふうに思っております。

本当に武雄市は議員の皆様方、市民の皆様方、そして職員の皆さんたちのおかげで、本当にいろんなところに行きますと、武雄はよく頑張っているということをおっしゃっていただきます。野田総理ももう知られております。そういったことで、重ねて感謝を申し上げたいと思います。

#### ○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員

#### ○11番（上野淑子君）〔登壇〕

ありがとうございます。それを聞いて私たちもまた一段と力をもってみんなで協力していきたいと思っております。

ここで1つ、先ほど皆さん、山口昌宏議員を初め市長もおっしゃるように、顔の見える支援をということで、また婦人会のことで嫌がる方もいらっしゃるかも知れませんが、婦人会のほうに緊急に岩手県の婦人会のほうから直接に連絡があったんですよ。仮設住宅に移ったものの、食器もない、鍋もない、布団もない、大至急食器をください。持ってきてということで、会長から会長に連絡があって、それで大至急ということで、すぐさま武雄市に連絡があったんです。武雄市の9町のほうの会長さんたちに連絡をいたしまして、急遽、二、三日でしたけれども、品物を集めました。そして、14トンのトラックに積んで岩手県のほうに行ってまいりました。私も一緒に行ってまいりました。そのときに、宮古市、大館市、それから石巻市、ずっと食器と衣類を置いていったんです。そこで私は、皆さんを被災地の写真とか、それからうちは議員のチームの人たちが、がれきの撤去にいち早く行ってくださっております。私たちはがれき撤去とか、そういうことはできませんけれども、我々ができるところはということで向こうから急な要請があったけれども、とにかくやってみようじゃないかということで集めてみました。そして、14トントラックいっぱいになって持って行ってまいりました。そのときに、北方支所長さんを初め、北方の西山さんやたくさんの職員の方にお手伝いをしていただきました。私たち女性だけでもやもやしていたのを、みんなで積んで本当に感謝をされました。そのときに思ったのです。いろんな支援の方法があるけれども、やっぱりいつもおっしゃるように、顔の見える支援をしなくてはいけないということ。私たちが持っていったこの食器類というのは、そこそこでもきちっと手渡されました。ちょっと見

てほしいと思います。（パネルを示す）写真が小さくてごめんなさい。わからないと思いますが。

〔市長「わかりますよ」〕

現場の写真はあれだと思いますので、ごらんください。こんなふうにして北方、これは支所ですね、9町の品物を集めて持っているところです。皆さん集まって食器は5枚ずつなら5枚ずつ、皿は皿、茶碗は茶碗、すぐ使えるようにということで、会長さんたちみんなでちょっとあれしたり、ハイターにつけたり洗ったり、とにかく大至急ということでしながら。それから、山口良広議員にも協力していただいて、このコンテナなんかを無料でいただいたりして、本当皆さんの善意でトラックいっぱいになりました。それをあっちに持って行って、ずっと——これは宮古市です。宮古市の、被災を受けておられるので、おろすところもないんです。でも、この公民館自体ももう戸も全部ありませんし、全壊という印がついておりました。でも、この時間だけ、二、三時間でもちょっと借りられんかということで、その会長さんが借りておられたので、そこにみんなてんぐ取りしてそこに置いてですね、ここで仕分けをされたんです。ここに婦人会の方がたくさん集まっておられて、こういうふうに宮古市も釜石もみんなそういうふうにならずにおろしていったんです。そのときに、本当に集まってこられた中でたくさん話も聞きたかったんですけど、それをじかに聞くということで、とにかく4カ所5カ所を回るのも、もう目いっぱい余り話をする暇はありませんでしたけれども、ここに集まった中には御主人を亡くした、家はもうとにかく皆さんない。そいけん、もう親もない、子どもも亡くなったり、それでもやっぱりこんなしてみんなのために武雄から持って来てくんさった、そんないこれをみんなで分けようねということで集まっていたんです。本当にたくさんの方が何カ所にも集まっていたいただきました。それはとっても喜んでいただきました。第2陣が二、三日前に県を出発しております。また第3陣、第4陣、宮城県、ずっといろいろしておりますので、持っていく予定なんです。

そのときに私、本当これだけはどうしても皆さんに伝えたかったなあと思ったのは、本当にこういうふうに婦人会、この団体というのがつながっているというので、あ、こがんとつながるといってだなど、つくづく思いました。行ってそこで話したときにも婦人会という、皆さん涙を流して、ああ、よかったと。入っておってよかった、よかったねということを書かれたんです。それで、ああ、やっぱりつながるとは大事だな、つながる部というのも本当に大事な部だなと思いつつ、体感をしてまいりました。

そのとき、ここに行ったときに私はどうしても皆さんにお伝えしたかったのは、もう4カ月たったときに行ったんですよ。7月の終わりに行ったんです。7月の終わりに行って、本当に私も不心得だったなあと思ったのは、がれき撤去に行かれたときの報告もいろいろお聞きして、写真やなんかでいっぱい見ていたんですけど、私が行ったときはもう4カ月たったので、きれいにここら辺は片づいていたんですよ、がれきが。もう本当に悲しいな

と思ったのは、草がいっぱい生えて、そこは運動場やったかなというような感じなんですよね。私はもう、ああ、自然に壊されて、また自然がこがんになって。それで私、本当に強引な発言をしたんです。いや、ここら辺はやっぱり草むらにして、運動場ごたつとにするとか、ちょっとばらつと言ったんです。そしたら、その会長さんが、「何ば言いよるですか。ここには何百軒も住宅があったんですよ」と。本当に私も恥ずかしかったですけどね。

〔市長「よかよか」〕

本当にそういう状態で、だから本当に行ってみなくてはわからない。何をしなくてはならないのかがよくわかる。だから本当がれきの撤去に行かれた方々の努力や、そのとき受けてこられた、いろんな体感されたことは最も大事なことであったなと本当に思いました。

そういうふうな状態で、今からも私たちもどんどん行きます。また、行かなくてはなりません、要望がありますので。品物自体は皆さんも集められたら、本当にたくさんの品物が集まりますし、今県の本部の会館は、もう布団とかなんとかがいっぱい事務室に入るとにこうして行かんばらんごたる状態なんですよね。

そこで、私たちも行きますし、ほかのいろんなNPOの団体とかいろんな団体もそういうふうにして支援物資を持っていかれると思うんです。そのときに一番はたと困ったのが、運搬費用なんです。私たちも14トントラックであっちまで行くのに30万円近くかかるんですね、運転手が着かれてからですね。1回目は北方連合運輸の方が物すごくしていただいたので、安くしてイケたんです。でも、何回も何回もですからですね、カンパをしたりなんかしてしています。でも、私たちはずっと息長くしていこうという考えでやっていますので、とにかくその運搬費用というのは、で、我々の団体ばかりじゃなくて、よその団体もそこで行き詰まっていらっしゃる団体があるんじゃないかなと思うんですよ。そういう団体に対しての支援といいますか、そういうふうなのはどういうふうにお考えなのか、お聞きしたいなと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

よし、やりましょう。やっぱりスピードが命ですよ。せつかく皆さんの、特に婦人会を中心とした善意で、毛布とかいろいろあるのを佐賀で眠らせておくのは僕はもったいない。やりましょう。（拍手）まばらな拍手をありがとうございます。

きょう、御存じだと思いますけれども、やっぱり婦人会は偉いですね。県地婦連ですかね、（新聞写しを示す）が第2弾支援物資ということで、冬に備え寝具や食器、陸前高田、大船渡市に送るということを書いてあるんですね。ここでぜひ上野議員にお願いがあるのは、先ほどこれ市民の善意であるとか、税金で行うわけですよ。したがって、先ほど私が申し上げた陸前高田市、県と市と共同でやっている気仙沼市、それともう1つ、仙台市に関しては、

私は議会の合意はとれると思うんですけども、これが何かばらんばらんとかですね、何か聞いたこともないような——それを悪いと言っているわけではないですよ。というところになると、顔の見える支援にならないわけですよ。ですので、そこがクリアできることですよ。それができれば、私はこれは議会の皆さんたちも「よし、やれ」と言ってくださると信じております。

いずれにいたしましても、ここの新聞の中に10月には第3弾の支援物資を考えたいと書いても遅い。もう早よう送りましょう、9月じゅうに。ですので、そういうことで私たちは、武雄市民を私は代表する立場にありますけれども、武雄市民の一人としても積極的に応援をしてみたいです。顔の見える支援をやりましょう。

**○議長（牟田勝浩君）**

11番上野議員

**○11番（上野淑子君）〔登壇〕**

とてもうれしいです。本当に困っているところですので。これを聞かれた方も、ほかの団体もいろんな支援の申し込みがあると思いますので、そこらをよく話をしながら、本当に頑張っていきたいと思っております。ありがとうございました。

では続きまして、もうこの原発については、先ほど来市長の考えについてはびっしり皆さんお感じになっていらっしゃるでしょうし、脱原発とはっきりおっしゃる市長の言葉に私はもう感無量でございます。どこの市長さんも、どこの町長さんも、だれも脱原発とおっしゃっていただけません。なぜかということですけども、私は市長に対しては、そこはもうはっきり聞いておりますので、我が市はこれに向かって進んでいくんじゃないかと思っております。

私はなぜ脱原発ということをずっと、これは私はもうずっと前々から、何十年も前から言っておりますけれども、一体なぜ言っているかと。それは、私周りの方々といろいろ話すことがありますけれども、やっぱり原発についての知識がない。知らされていないというのか、知らないというのかですね。ただ、便利だ、本当に便利です。なくてはならない電気だと思っております。でも、こうなった。そここのところを知らないということは本当に恐ろしいことだなと思っておりました。私は、今いろんなところに勉強に行きました。それで、何年たった今でもやっぱり脱原発、いけない。その理由をちょっと読ませてください。私も本当にこれだけは皆さんに聞いてもらおうと思って持ってまいりました。皆さんチェルノブイリを御存じだと思います。チェルノブイリからもう25年がたっております。せんだってチェルノブイリに行かれて記録映画をされた人のところに私も長崎まで見に行っておりました。そのときに25年たった今、チェルノブイリはいかなるものなのか。私は女性として母親として、そして一市民として、本当にこれからの子どもたち、孫のためにこういうことがあってはならないと思っております。聞いてください。

いっぱいありますので、ちょこっと読みます。(パンフを示す)これは岩上安身さんというジャーナリストの方です。「チェルノブイリの惨禍はいまだ終わっていない。ベラルーシのゴメリ州の甲状腺がんの発症率は1,000倍に増加をしました。ミンクス市では奇形児の出産率が25倍になりました。脳が頭蓋骨に収まらない水頭症の少女の姿。私たちは実際映像を見せていただきました。健常児が生まれる確率は15から20%という医師の言葉が遺伝子を傷つける放射能汚染の深刻さを物語る。チェルノブイリの痛ましい現在は、25年後の日本の私たちの未来かもしれない。」という最後の締めくくりなんですけれども、本当にいろんな映像を見られた方はおわかりだと思うんですけど、チェルノブイリの核というのは世界最大の最悪のごみ、核廃棄処分だと。それをまた25年たった今でもどうしようもない、50年たってもどうしようもない、いまだかつて物すごい放射能を発生している。何号機でしたかね、コンクリートで固めて石棺と言われるようにやっぱりしてはおりますけれども、それももう年度は来ている。もし、それが壊れたときは、どうなるかということです。私たちは知らなければいけないと思います。

だから、これは一番初め、25年前に私たちも一生懸命勉強もし、聞きもしました。そのときはチェルノブイリは遠かけんが、そがんここまではなかくさんというごたる甘い気持ちで、でも大変だねという気持ちを持っておりましたけれども、でも皆さん考えてみてください。ほら、中国から黄砂も飛んできます。ごめんなさいちょっと書くと忘れて、7,600キロでしたかね、ロシアからですね、そこから放射能が何年か後に飛んでも来ております、チェルノブイリでもですね。そういう結果はきちっと出ているんですよ。それを知ったときに、私たちは原発はなからんばくさんと言えるでしょうか。市長がおっしゃるように、今すぐ原発はなくす、それはできないと思います。でも、本当に脱原発を目指して私たちは日本の将来、我々の子どもたちを守っていくならば、していかなければならないんじゃないかなと思っております。本当にこの映像を見たときに、私は本当、皆さんもごらんになったかとも思いますけれども、チェルノブイリ、もう25年だからお母さんの子どもですよ。でも、本当にこの水頭症という――そしたら、ここでおっしゃったことが、そういうふうに見て奇形児が生まれたら、親が全部子どもを捨てる。で、遺棄された、捨て去られた子どもたちを納めている施設の映像だったんですけどね、それはもうすごいですね。私は決してそういうふうにはなしてはいけないと思います。そしたら、本当にみんなで考えていかんばいかん。そのためには一個一個私たちが、その先頭を切って市長がいろいろ言っている。じゃ、それを我々は守っていきながら、子どもたちやみんなを守っていきなさいなと思っております。そういう点で私は原発については絶対に反対をしていかななくてはならないと思っております。市長の今の考えお聞きしたいと思います。

○議長(牟田勝浩君)

樋渡市長



## ○樋渡市長〔登壇〕

しみじみ聞いておりました。私も全く同感です。これやっぱり見えない恐怖というのが一番やっぱり怖いですよ。何か見えていると避けたりとかできるんですけど、見えない恐怖ですよ。それと、さっきおっしゃったように、それが50年、100年と残る可能性があるということからして、私も同じ立場です。

ちょっと先ほど申し上げればよかったんですが、今被災地で、陸前高田市市長とか副市長と話したときに、今一番何が足りないかという、やっぱりストーブ、やっぱり九州と違って寒いんですよ。今もう寒いんです。ですが、今までの暖房器具ですよ、電気ストーブとかそういう石油ストーブが流されてないと。その部分というのが先物買いで結構今不足している、電気。電気屋さんも流されていますから、もう不足しているということですので、もしこれから寄附が——これユーストリームで全国にも流れていますし、多くの方々がごらんになられていますけれども、やっぱり寝具ですよ、毛布とか、あるいはさっき申し上げました電気ストーブを初めとした暖房機というのが圧倒的に不足するという事は、もう目に見えていますので、そして、しかも仮設住宅の場合は、御案内のとおり、外が寒ければ中も猛烈に寒くなります。僕も入りました。ちょうど外が32度のときに、武雄にお見えになられた仙台の大友よし江さんの仮設住宅に入ったんですね。そのときに確かに冷房はきいていたんですけども、やっぱり下がらないんですよ、もう仮設住宅は。そして、上は何度ぐらいですかねと言ったら、もうはるか40度を超しているということですので、これが今度冬になると逆になります。しかも冬の場合はさらにお年寄り、年配の皆さんたちが、かなりやっぱり体力的にもう落ちているんですよ。体力も落ちておられますので、そういう意味で何がこれからの季節に必要なのかというのは、これ私が言うまでもなく、インターネットとかいろんなところで出ていますので、ぜひそういう支援をお願いしたいというふうに思っております。

ちょっと長くなりましたけれども、以上です。

## ○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員

## ○11番（上野淑子君）〔登壇〕

わかりました。本当にうれしく思います。

今も電話が鳴っているのは、やっぱり寝具類が足りないということです。寒い寒い。私たちが7月の終わりに行ったのに、「今は毛布持っていかなでよかろうもん。ほかんと持っていこうよ」と言ったら、寒いという連絡だったんですよ。だから、本当にあれで冬を越すのは大変だなと思います。

それから、本当に先ほどの資料で私、仮設住宅も写したいなと思ったけど写されんですけど、あんなところに行こうしていらっしゃるのに。私は写しきらんやったです、仮設住宅の

中。「いいですよ」と会員の方が言われたので中に入れていただいたんですけど、とんでもなかですね。だから、あんなところを私たちは本当に見ながらしていかななくてはならないと思っております。一日も早く暖かい物は届けられればなと思っております。

では、次の質問に移ります。

次もまた震災に関してですけれども、これもまた本当、事震災に関してはいろんなことを勉強させていただきました。この前、群馬大学の片田敏彦先生ですかね、先生の講演を伊万里のほうにちょっと聞きに行っていました。そのときは本当に、あらっと思ったんです。皆さんも御存じだと思います。「釜石の奇跡」と言われて、3,000人余りの小・中学生が全員無事に助かったと。あれだけ子どもたちが流されて亡くなられて、本当に痛ましい目に遭われたのに、ここは助かった。で、どうなのかということで、この釜石の奇跡を生んだ片田先生というのは引っ張りだこだそうです。幸い伊万里に来られたので、話を聞きに行きましたけれども。この先生がおっしゃることに、自分の命は自分で守れ、想定を考えるなど、想定外はあるということですよ。それから、私が本当にあらっと思ったことは、この片田先生は——この釜石は津波の常襲地区ですので、7年前からここに入ってずっと避難訓練を指導していると。それが今回の功を奏したということです。テレビ見られた方もたくさんいらっしゃると思います。中学生が小学生の手を引いて、隣近所そこら辺のおじさん、おばさんに声をかけながらずっと避難していくところを撮ってありましたよね。私もあそこまでなるには、やっぱりこの片田先生もおっしゃいました。やっぱり小さいときの学校教育というのはとても大事だ。今までは本当に大災害、この被災のいろんなもう、ちょっと言えば大人という社会的なものばかり見ておりましたけれども、片田先生の話聞いたときに、ああ、やっぱり根本は自分の命を守るためには学校教育でしっかりしていかなばいかんと。ああ、やっぱり学校教育も根底から見直していく時期になったのかなと思えました。

本当に今私たち、私は北方ですけど、北方でも水害の常襲地区ですので、水害の避難訓練、水難訓練というのは時々あったのを思い出しておりますが、一体学校での避難訓練と言われるのは、どういうふうな現状なのか、今のところお知らせください。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話がありましたように、普通、皆さん方が小・中学生のときもされたかと思いますが、火災が発生したときの避難、あるいは水害のときの避難、台風等も含めてですね、そういう避難訓練がメインでありますし、各学校がつくっているマニュアルもそういう自然災害、あるいは交通事故等含めて安全面等々が中心のマニュアルを持っているわけであります。実際に避難訓練もこれまでは火災とか水害対応の訓練をしていたというのが現実でございます。数年前の福岡西方沖地震がありましてから、地震等の訓練も加わったというのが状況でござ

います。もちろんそれ以前に御存じのとおり校舎改築等で地震等への対応ができる建築を今していただいているわけですが、避難訓練としてはそういう状況でございました。

お話にありましたように、今度は原子力災害というのが非常に対応として難しいという面があるわけですが、今、夏休み等を含めましてよかったなと思っておりますのが、訓練といいますと、子どもたちやっぱり実感がないもんだから、ふざけたりするわけですが、いかに実感を持たせるかというのが大事なわけですが、その意味でチーム武雄の皆さんが中学校を初め小学校も入っていただく、あるいは北中で子どもたちが代表として数名現地に派遣してみても話をしてくれると、あるいはこれは北方小学校では手紙を送ったりしてくれていますし、中学校では昨年度から交流している学校と交流をして、話を聞くと。そういう少しでも原子力災害についても実感を持てる機会というのを持っていたいたというのが、今後に生かせることかなというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

1点補足をします。

私、9月4日の原発を想定した、あるいは水害火災を想定した防災訓練で、ああ、やっぱり一つ足りなかったなと思って、これ私の判断ミスなんですけれども、学校はそこに加えていなかったというのが非常に判断ミスとして反省をしているんですね。実際、学校だけで災害が起きるわけじゃなかですもんね。特に大規模だった場合は、もう地域も含めて全部、やっぱりそこはパニック状態になるわけですよ。したがって、来年また9月は大規模な防災訓練を行いますけれども、そこに学校、特に私は小学校ですよ。今回の震災でも高校、中学校、小学校と見た場合に、押しなべてみた場合に、一番やっぱり死亡率が高かったのは小学校なんです。ですので、市内全部とはちょっととても言いませんけれども、幾つかモデル校をつくって、そこを訓練に組み込みたいと思っています。やっぱり子どもの命は大事ですので。

そこで、これちょっとずれますけど、やっぱり片田先生もおっしゃいますし、私もチーム武雄で行ったときに、だれが助かったかといったら、早く逃げたと、ちん逃げたという人たちが、子どもたちが一番やっぱり助かっているんですよ。これはもう訓練なくしてやっぱり避難なしです。ですので、これは徹底的に頭で考えるよりも体で動くようにしていくのが我々大人の責任だと思っていますので、来年はそういうふうにしていきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

そうですね。本当にいつも市長おっしゃるように、しつこく体感で、体で動く、判断をするというふうに、子どもこそそれが必要じゃないかなと思っておりますが、今教育長の現時点でのいろんな現状を聞きましたけれども、大体回数とか年にどのくらいされているものなのか。それから、実際ですよ、今から改良されていかれると思いますが、今まで地震に対して具体的にどのようなことをされ、一つの事例で結構ですので。それと、回数とお尋ねします。

**○議長（牟田勝浩君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

避難訓練につきましては、梅雨期前に水害対応をしております。それから、一番火災の多い時期、冬場に火災対応の避難訓練等をしている。この2回が一番多い形かなというふうに思います。地震につきましても、ここ数年3回目の対応ということで対応しております。

先ほどちょっと申しましたように、現在、建築中の武雄小・中で、大体基準の数値を満たすわけでございます。そういう場合には、少々の地震では校舎も倒壊しないという建物になるわけでありますので、その対応、そのときの判断になりますけれども、この場合は室内でいると、あるいはひどい場合は外に出るといような対応になってこようかと思っております。

**○議長（牟田勝浩君）**

11番上野議員

**○11番（上野淑子君）〔登壇〕**

本当に想定外のことで、マニュアルどおりのあれかもわかりませんが、私たちいろんな話し合いをちょっと主婦ばかりでするときがあるんですけども、子どもたちは本当にさっきおっしゃったように、体感してこがせんばらんと決められているので、もし地震、さっきおっしゃったように、学校だけじゃなくてよそにいるときに地震があったときに、教室の机の下に潜れと習っておったら、教室に戻ると。（「そうそうそう」と呼ぶ者あり）そういうこともあり得ると。だから、自分で考えていかんばということを常々訓練もしつこくしつこくせんといかんということなんです。

それから、また東京のことですけども、子どもたちには自分たちで考えろという避難訓練もあるそうです。ぐらっと来た。昔はぐらっと来たら、机の下とか言っておりましたけれども、そうじゃなくて自分で考えろという、そういう方向になっている。

この前、文科省のほうからも出ていましたね。危険回避能力を、防災教育の充実への提言ということで文科省から出ておりますが、でも、これはまた次の段階ですもんね。ですから、今は——いつまでも出るのを待っておったっちゃどがんしゅうなか、いつ来るかわからない災害ですからね。

もう1つお聞きしたいのが、ごめんなさい、2つ。1つは、うちの武雄市内の学校が耐震

化、もうずっと以前にも質問したと思うんですけど、耐震化についてどうなのかということと、2つ目は、学校には本当に支援を要する子どもたちがたくさんいます。本当に大変だなと思います。その子どもたちに対しての支援策というのはどのような計画を立てていらっしゃるのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

校舎の耐震化につきましては、今74%ということで推移をしております。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先ほどの前の質問に1つつけ加えさせていただきます。

大体、火災、水害、地震という想定した避難訓練であります。ここ数年、各学校不審者対応の避難訓練、これも1つ加わっている状況でございます。

それから、障がいを持った子どもさん等への対応ということでございますが、これにつきましては、今年度生活支援員さんとか、特別支援学級の補助員さんという形で補助員さんについていただいております。したがって、担任とそういう支援員さん協力して直接的には対応するというところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

ちょっと済みません、2つ。

74%というのは具体的にどういうのか、ちょっと皆さんにわかるように説明してほしいと思う。

それから、もう1つ、本当に支援を要する子どもたちというのは、たくさんいらっしゃると思うんですね。ADHDの方とか、LDの方とか、アスペルガーの方とかですね。それから、本当に不登校で、きょうは学校に行ったばってん、どこかの隅にかごんどったとか、実際いらっしゃるんですね。だから、本当に目に見えない子どもたちというのは、たくさんいらっしゃる。今教育長おっしゃったように、たくさん支援員の方が武雄市は本当によそよりもつけていただいております。支援員の方がいらっしゃるし、支援学級にも支援員の方がいらっしゃると思いますけれども、本当に1人が1人をついていかななくてはならないという、このような子どもたちがいっぱいいらっしゃる、本当に大変だと思うのです。私は本当に思いました。自分の学校でこがんとしたら、だれがどこにどうするか。そして、あした来るよ、地震が来るよと決まればいい。でも、さつというときに、どがん。何人かの現場の

先生にも聞いてみたんですよ。抱えていかんばらん生徒もおる。保健室に寝ている子もおる。「そがん言うたら、どがんしゅうでんあんもんね」と言われたらそれまでですけど、我々指導者としては考えておかなくてはならないことだと思っております。

ですから、そういういろんな場合があるので、これは私はお願いですけれども、やっぱりこの社会的に防火、防犯のプロの指導を先生方も受けるべきだと思います。昔とはまた災害が違ってきました。昔は水害が来て、ずっと来てずっと帰るだけやったけんですよ、いろんな話し合いができましたのに、今こんな想定外のことがある時代です。ましてや放射能に対してのですね。だから、私はプロの方と先生までとは言わなくても、そういう先生の指導を先生方が受けるべきじゃないかなと思っておりますが、いかがでしょうか。

**○議長（牟田勝浩君）**

浦郷教育部長

**○浦郷教育部長〔登壇〕**

今耐震化率74%と申し上げましたけれども、これは22年度末でございますので、まだ武雄小学校、武雄中学校、今改築なり補強工事とか、そういうものをやっておりますので、それが入っておりませんので、その武雄小・中、それから山内中、そこが入ってくればもう90%近く入るといふふうになります。

**○議長（牟田勝浩君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

確かにプロの方の指導を受けてということは、もうおっしゃるとおりでございます。

実際に火災とかは消防署から指導をいただいていますし、不審者対応とかにつきましても警察の方の協力を得てということでございます。先ほどおっしゃったように、原子力災害等が最も対応が難しいわけでありまして、あるいは地震、この判断といいますか——水害は毎年ある程度の大水というのは想定できるわけですけども、そのあたりでどの程度、どういうふうな計画がいいのかということまで含めて遺漏がないように、そして、極力専門的な知恵をかりてというふうに考えます。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

補足をします。

やっぱり生で聞くのが一番なんですけど、なかなかそういう機会というのはないですもんね。

1つだけ例を申し上げますと、片田先生が伊万里市で講演されたときに、ちょうどその後、僕、伊万里市長と会ったんですよ。数少ないお友達の市長の一人なんですけど、伊万里市長

と話をしたときに、物すごくよかったと市長さんも言いんさったですもんね。そいぎ、武雄でそい聞かすっぎよかったと思ったぎ、DVDば貸しますけんというふうに言いんさったとですね。そいけんがDVDやったら、そいは好きなときに、例えば火事が、先生たちでも火事があって中断せんばいかんでも、これはとめて見られるとかというふうになりますので、ぜひそういう機会もつくりたいと思っております。やっぱり一同に聞くとはなかなかね、時間を先生方もお忙しいですので、そういうふう到我々は工夫してなるべく実体験に近いような経験をしてぜひしていただきたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

文科省のほうも来年度予算に上げたいというのを書いてありますけれども、来年までは待ちよっちゃどがんしゅうでんなかけんですね。ですから、今市長おっしゃったように、まずはビデオでも結構です。本当に現場が忙しいということは十二分に承知しております。でも、忙しかばってん命がなくなつては何にもなりません。私たちは常日ごろから機会あるごとにしとかんばいかんと思っておりますので、どうぞ教育長、そういう計画を大変だと思っておりますが、早速取り組んでいただきたいと思っております。よろしく願いしておきます。

では、次に移ります。次は学力の充実についてでございます。

これもまた震災とも関係があると思えます。たくさん子どもたちが勉強をしたくても流されて亡くなってしまった。本当に大変なことが起こった。じゃ、残された子どもたちにもやっぱりしっかりした学習の充実の機会を与えるべきだと思うし、しなければならぬと思っております。

お尋ねですけれども、今——これ学習と書いておりましたが、学力と学習とまた違うところがあるかと思えますけれども、押しなべて我々は学習といたら学力のことしか頭に来ませんけれどもですね。じゃ、まずは大体、一応武雄市内の学力についての教育長のお考えとか、ちょっとお聞きしたいと思えます。それから次に行きます。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

ここ数年、全国の学習状況調査があつているわけですが、御存じのとおり例年これは4月に実施されております。それで、東北大震災が発生したこともあつて、今年度は全国の学習状況調査は実施されませんでした。全国との比較で学力を見るということではできないわけですが、佐賀県の場合に学習状況調査を毎年4月に実施しております、それについてはこういうような状況になっております。（パネルを示す）5年生以上、5年、6年、中学校1年、2年、3年と実施するわけでございますが、ごらんいただいておりますように、5年生で

は県の平均値よりもどの教科におきましても高くなっております。中学1年生でほぼ県の平均並みとなっております、中3でちょっと入試を前にしてであります、県平均よりも若干よりも低くなっているという状況がございます。中学校1年生では、これは青陵中に行った子どもたちの分は武雄市の平均からは除いているわけがございます。

小学校では、県平均よりも少しずつどの教科も高くなっているわけがございますが、特に東川登とか西川登、若木、武内など、あるいは山内中とか武雄中の2年生とか、今年度の佐賀県の調査におきましては、非常に数値が高くなっているわけがございます。この調査によりまして、あるいは学年によりまして数値的には移動があるわけでありまして、押しなべて見えてきましたことは、やはり学習習慣、これは学校での習慣もそうですし、宿題等を含めた家庭での習慣、それからノーテレビデーの実施、これも達成度の報告をいただいているわけでありまして、本当に真剣に取り組んでいただいている学校、あるいは今電子黒板とかの活用をお願いしているわけですが、非常に子どもたちが興味を持った学習につなげていただいているとか、そういう報告をいただいた数値とも連動していくのかなというような思いは現実を持っております。

そういう意味で、少なくとも中学校において平均並みには、少なくとも佐賀県平均並みには青陵中に行った子どもたちを除いても、最低でもそこは維持して頑張っていきたいというふうに思っておりますし、各学校でもその姿勢で頑張ってもらっている成果だろうというふうに思っております。

**○議長（牟田勝浩君）**

11番上野議員

**○11番（上野淑子君）〔登壇〕**

学力は成績ばかりじゃないと思いますし、学力は生きていく力を身につけることだと私は思っておりますが、今見せていただいたように、もっと悪かっただろうなと思ったら、とてもよかったですね。安心いたしました。

すべての子どもたちに学習の場を与えなきゃならないし、受ける権利も子どもたちにあると思うんですけども、なかなかさっきおっしゃったように学習についていけない子どもたちもたくさんいると思いますし、それから不登校である子どもたちとかは学校にはなかなか足は向かない。でも、勉強もせんばいかなという子どもも中にはおる。きょうは行きたかばってん、ちょっと少しでも、いろんな子どもがおると思いますが、そういうすべての子どもたちに何か学ぶ場を与えるということはできないものなのかな。そしてまた、幸いそれは土曜日という、こうありますね。せんだって時間割をちょっと見せていただいたんですけど、小学1年生の時間割でも、私たちが1年生のときは昼までで1年生はみんな帰りよりました、大体ずっとですね。でも、今はもう3時ぐらいあるとですね。こがん月曜日から金曜日までびっしりあるのに、行きとうなかと思うともほんなごとねと思うときもあります。で



も、土曜日があいております。じゃ、その土曜日を有効に何とか活用できないものかなと私は思いますが、教育長はどのようにお考えですか。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先ほどのグラフでもおわかりのように、特にやはり入試を前にした中学3年生の学力については非常に心配をするわけでございます。夏休み前半までは部活等で本当に一生懸命頑張ってくれておりますし、この秋から土曜学習会というのをできないかなというふうに考えているわけでありまして。

それから、土曜学習会につきましては、毎週土曜日を活用しまして5教科、あるいは基礎的、基本的なのを繰り返し身につけるというところで実施したいというふうに思っております。講師の先生をお願いしたいと思っておりますが、できれば地域の方で応援していいよということであれば、子どもたちへの応援をお願いできたらという思いもでございます。

また、先ほどのグラフでもそうですが、英語ですね、これは非常に実は心配をしているわけでございます。その心配というのは非常に個人差が大きいと、いわゆるこの点数にしても幅が広いというようなところもございまして、そうしますと、英語をもっとやりたいという、そういう子どもたちもたくさんおるわけでありまして、そういうもっとやりたい子どもたち、さらにやりたいと、英語をもっとやりたいという子どもたちを育成するプランというのも考えているというところでございまして、さらに伸びたい子、そして、もっと基礎をしっかりとやってという両面で考えていけたらというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に通じてよかったです。本当に土曜日を有効に、もし、それをまだ今おっしゃただけで計画はまだかと思えますけれども、よりよい計画を一日も早くできて、実施ができるように楽しみにしております。そして、お願いですけれども、本当にたくさんみんなにきちっと広報が行くようにしていただきたいと思えます。

私はなぜこんなことをといたしますと、ある学校で中学校の定期考査等になるときは1週間前に、朝7時から8時まで地元の先生OBたちが行って学習塾みたいなのを学校でさせているんですね。それが大変功を奏しているという話も聞いたりしてですね。だから、本当先生OBもたくさんいらっしゃる中、先ほど教育長おっしゃったように、やっぱり頑張る子どもたちのために力を出していかなければいけないなと思っております。

それから、ちょっとごめんなさい。ひとつお尋ねですけど、土曜の学習会と英語の学習会、これは別個ですかね。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

土曜日の学習会は、まさに毎週土曜日の午前中ということは今考えております。

英語のほうにつきましては、水曜日が割と……（「議案に出とるよ」と呼ぶ者あり）

○議長（牟田勝浩君）

そいけん、それば言いよとです。

〔11番「いいですよ、いいです」〕（「一緒たい」「議長、公平に扱わんば」と呼ぶ者あり）

それを今やっていたところですよ。

○浦郷教育長（続）

別に考えております。（笑い声）（「答弁してよかさい」「してよかよ、それぐらい」と呼ぶ者あり）

○議長（牟田勝浩君）

よくはないです。（発言する者あり）

11番上野議員、事前審査のほうは気をつけてやってください。

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

そうですね。はい、わかりました。

では、楽しみにしておきます。よりよいたくさん子どもたちに有効活用できますように計画のほうをよろしくお願ひしたいと思ひます。

では、私はきょうは本当に震災に向けて子どもたちをいかにどうしていくかについて、思ひのたけをと思ひておりましたけれども、余りきょう行きませんでしたけれども、本当にたくさんのおい意見をお聞きできて、よかつたと思ひておひます。

では、一般質問を終わります。

○議長（牟田勝浩君）

以上で11番上野議員の質問を終了させていただきます。